

広島からのよびかけ

今、私たちの光は核兵器禁止条約です。この会場にいるすべての皆さんと、これを聞いている世界中のすべての皆さんに対して、広島廃墟の中で私が聞いた言葉をくり返したいと思います。「諦めるな。押し続けろ。光が見えるだろう？そこに向かってはって行け」

——2017年12月10日、ノーベル平和賞受賞式での被爆者・節子サーローさんの演説より

73年目の広島原爆の日——未曾有の豪雨災害をうけた被災地では、きわめて深刻な事態がつづいています。犠牲になられた方がたへのお悔やみと、被災者のみなさんへのお見舞いを申し上げます。猛暑のなか、広島をはじめ多くの方がたが被災者救援と復旧に力を注ぎながら、原水爆禁止世界大会の開催を可能にくださったことに、深く感謝いたします。

アメリカの投下した原爆がこの広島を地獄に変えたあの日から73年、私たちは核兵器禁止条約への各国の署名と批准がすすむなかで、この日を迎えています。その中で、6月の米朝首脳会談によって、朝鮮半島の非核化と北東アジアの平和体制の確立にむけた歴史的な一歩も踏みだされました。

しかし、アメリカの「核の傘」に深く依存する安倍政権は、核兵器禁止条約に背を向けるばかりか、「戦争する国」づくりに執念を燃やしています。

今日の世界の動きの根本には反核・平和の世論と運動の発展があります。核兵器禁止条約の発効や朝鮮半島の非核化を成しとげる力も世論にあると、私たちは確信しています。「核兵器は安全のために必要」だとする「核抑止力」論を打ちやぶり、「核兵器のない世界」を求める市民社会と政府の共同をさらに発展させるならば、かならず未来はひらかれます。

核兵器禁止条約を一刻も早く発効させ、被爆75年の2020年にむけて、「核兵器のない世界」に道をひらく壮大な運動をくりひろげましょう。東京、北京とオリンピックが続けて開催される北東アジアを、非核・平和を発信する地域へと大きく変えていきましょう。

2020年までに世界数億をめざす「ヒバクシャ国際署名」の運動を、首長や議員とも共同し、自治体ぐるみ、地域ぐるみで発展させましょう。アメリカの「核の傘」からの離脱と核兵器禁止条約への参加を日本政府に強く求めましょう。禁止条約への署名・批准を求める自治体意見書のとりくみを飛躍的に強めましょう。日米核密約を破棄し、非核三原則の厳守・法制化を求めましょう。

被爆の実相をさらに大きくひろめ、核兵器の非人道性を告発しましょう。すべての地域・自治体で「原爆展」や被爆体験を語る集いに取り組みましょう。原爆症認定制度の抜本的改善と被爆者への国家補償を求め、被爆者援護・連帯の活動をいっそう強めましょう。

3000万署名をはじめ9条改憲阻止のたたかいをさらに発展させ、「戦争法」を廃止しましょう。県知事選をはじめ、この秋、沖縄は重要な政治的対決のときをむかえます。県民の尊厳をかけた「オール沖縄」のたたかいと固く連帯し、辺野古への新基地建設の撤回、普天間基地の撤去を求めましょう。日米軍事同盟の強化に反対しましょう。

原発再稼働に反対し、原発からの脱却と自然エネルギーへの転換を求めましょう。雇用とくらしの破壊、貧困と格差の拡大に反対し、軍事費を削ってくらし・福祉・教育をまもる運動を強めましょう。あらゆる差別に反対し、ジェンダー平等を実現しましょう。

こうした運動を大きく合流させ、市民と野党の共同の力で、安倍政権を退陣へと追い込み、被爆国にふさわしい政府をつくりだしましょう。

60年をむかえた平和行進でも新たな共同が広がっています。いまこそ国民的な共同を新しいステージへと高めましょう。被爆者とともに、若い世代とともに、未来を切りひらいていきましょう。

ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ ノーモア・ヒバクシャ ノーモア・ウオー

2018年8月6日